

住宅のエネルギー消費の見える化および住まい方診断システムの提案

背景

- 2020年以降の省エネルギー基準義務化への対応とZEH（ゼロエネ住宅）等の一層の省エネルギー化が必要です。
- 確実に省エネルギーを実現するためには、住宅の性能確認と適切な住まい方が重要です。

成果

エネルギー消費量の見える化と住まい方の診断・アドバイスが行える
エネルギー診断システムを提案しました。

①基本データの入力

●住宅属性

- 建設地
- 家族構成
- 断熱性能
- 住宅設備

●検針票

毎月の電力消費量
毎月の燃料消費量

②入力データの分析

●比較

実際のエネルギー消費量

⇕

設計条件から予測される
エネルギー消費量

●住まい方の見直し提案

乖離がある場合は
改善手法の提示

③エネルギー消費量の見える化、アドバイスの表示、CO₂排出量の表示

●住まい方アドバイス表示例

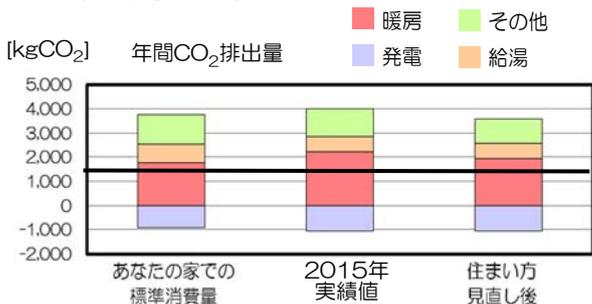
- 暖房設定温度が高めの可能性があります。
 - 暖房の設定温度を1℃低くする。
 - 秋は部屋着を暖かくし、暖房開始時期を遅らせていますか？
(春は部屋着を暖かくし、暖房終了時期を早める。)
- 冬の熱取得が小さい可能性があります。
 - 冬の屋間にカーテンを開けるなどし、積極的に日射を取り入れていますか？

図 エネルギー診断概要

年間消費量・CO₂排出量

用途	あなたの家での 標準消費量				2015年度				住まい方 見直し後 合計CO ₂ [kgCO ₂]
	電気 [kWh]	ガス [m ³]	灯油 [L]	合計CO ₂ [kgCO ₂]	電気 [kWh]	ガス [m ³]	灯油 [L]	合計CO ₂ [kgCO ₂]	
暖房	36	790.8	0.0	1758	1,002	774.2	0.0	2205	1925
給湯	46	339.6	0.0	770	54	285.8	0.0	655	655
その他	2,149	61.5	-	1210	2,024	53.3	-	1129	991
発電	-1,808	-	-	-904	-2,090	-	-	-1,045	-1,045
合計	423	1191.9	0	2834	990	1113.3	0	2944	2526

●効果の見える化



期待される効果

- 道が推進する「きた住まいる」での公開により、北海道の家庭用エネルギー消費量の削減に貢献します。
- 住宅生産者が、ユーザーへのサポートとして診断に関わることで信頼感が増し、競争力の向上が図られます。